

ようこそ、記憶の近道へ。

公立小中学校における モノグサ Monoxer 活用事例集



MONOXER

Case 01 基礎・基本は Monoxer で習得、
思考力を高める授業づくりを実現!

| 八戸市立明治小学校 様

Case 02 旧態依然とした指導方法からの脱却。
知識事項の定着は Monoxer で。

| 西東京市立谷戸第二小学校 様

Case 03 子供たちの特性に合わせた教材作成を実現!
特別支援学級における個別最適な学びの選択肢
としての Monoxer。

| 文京区立第九中学校 様

Case 04 島から世界へ羽ばたく力を
Monoxer 活用で変わる学び方

| 江田島市立大古小学校 様

Case 05 Monoxer で基礎を固め、
生徒主語の共創プロジェクト型の学びを実現

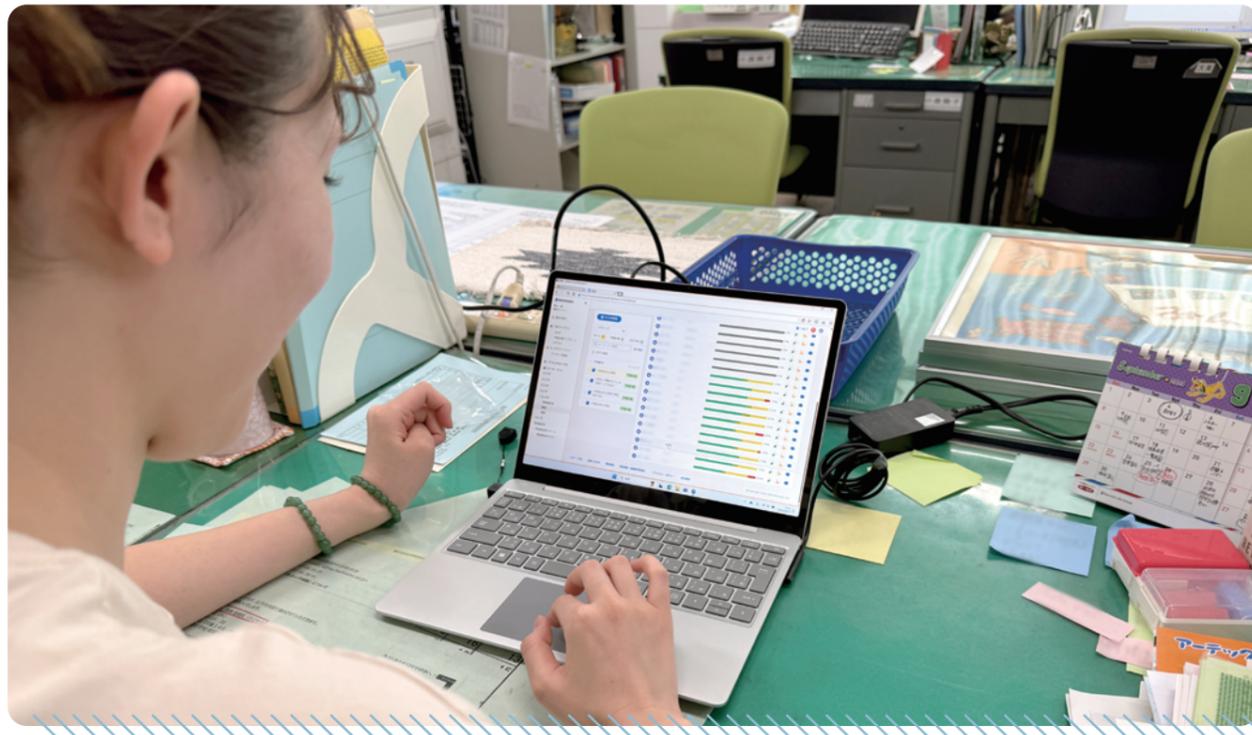
| 泉大津市立小津中学校 様

基礎・基本は Monoxer で習得、 思考力を高める授業づくりを実現！

八戸市立明治小学校 様

種別 学校 対象学生 小学生（小学2年生～6年生）

使用科目 国語、英語、算数、理科、社会



課題

授業づくりを行っていく中で、
基礎事項の定着に時間を割いて
しまい、思考力を養う時間が
作れていなかった



導入結果

Monoxer を活用して基礎・基本の学習を
効率化したことで、授業時間に余裕が生ま
れ、単元内で自由進度学習を取り入れるこ
とが可能に

Interview

八戸市立明治小学校 様

先生には思考力を育てるための授業づくりに力を注いでほしい。
基礎・基本の部分は Monoxer にお任せ。

–はじめに、どのような目的のもとで Monoxer を導
入されたのかを教えてください。

前提として、本校では「まなびかた」という方針を掲げて“主
体的に学ぶ子ども”の育成に注力しています。「まなびかた」
とは、「ま：まちがえたのはなぜ」「な：なろうミニ先生（自
分で説明することで理解が進む）」「び：ひとことコメント
をしよう」「か：かこう図や絵」「た：たいせつな言葉はなに」
をそれぞれ表しています。

各授業では、この5つから児童と先生の両者がテーマを定め
て取り組み、基礎的な知識技能とそれに基づく思考力の習

得を目指しています。ただ以前は、基礎・基本の定着で終
始することが多く、“授業づくり”の面で深まりが見られませ
んでした。

そこで、基礎・基本の部分は Monoxer に受け持ってもらい、
先生方には思考力を育てるための授業づくりに力を注いで
ほしいという願いから導入に至りました。他の学習ツールは
正誤判定と間違えた問題の再出題に留まるものが多いな
か、Monoxer は各児童の記憶定着度に応じて効果的な反
復学習を行えるのが特に魅力を感じた部分です。

従来のノート学習と比較して記憶の定着を実感。
自由進度学習を取り入れるなど、授業づくりにも変化が。

– Monoxer を用いた学習を開始して、どのような効
果があったと感じられますか？

点数や実績が明示されるので、児童たちも100%達成を目
指して積極的に取り組んでいます。また、従来のノート学
習の場合ですと、漢字の練習は1回目は意識的に組み
ますが、2～3回目となると頭で考えずにテレビを見な
がらでもできる「ながら作業」になりがちです。対し
て Monoxer は、単調にならないように出題や回答のパター
ンを工夫してくれるため、脳に適度な負荷がかかり、長期
記憶にもつながりやすいのは非常に良いですね。

さらにその児童が苦手とする問題を優先して出してくれます
し、モチベーションが続くように時々得意な問題も出して
くれます。このバランスの良さには、非常に感心しているこ
ろです。

– “授業づくり”の面における効果はいかがでしたか？

Monoxer に基礎・基本を任せて授業に空き時間を得られ
たため、単元の中で1～2回ほど自由進度学習を入れてい
くことになりました。通常であれば、基礎・基本のドリルだ
けで終わりがちだったのが、Monoxer を活用することで自
由進度学習が可能になったんです。

今後は複数教科の基礎学習に Monoxer を使用予定。
教師2名体制による Team teaching をより本格化することも視野に。

–最後に今後の展望についてお聞かせください。

今後は、教科の幅を広げていきたいと考えています。現時
点では算数と国語が中心ですので、この先は理科や社会
の基礎学習にも活用したいですね。あわせて、授業づく
りもさらにブラッシュアップしていく予定です。連携してい
る大学の先生から、基礎・基本の定着、思考力、学習方
略の面でご助言をいただければ、それを基に改善を進めて

いきます。

また、教師2名体制による Team teaching をより本格化し
たいという構想もあります。例えば、メインとなる授業の他
に、朝15分程で課題がある児童を個別でフォローアップで
きればより効果的だと考えています。こうした場面で、WEB
管理画面から各児童の進捗や課題を把握できるのも
Monoxer の良いところですね。

旧態依然とした指導方法からの脱却。 知識事項の定着は Monoxer で。

西東京市立谷戸第二小学校 様

種別 学校 対象学生 小学生

使用科目 国語、英語、算数、理科、社会



課題

GIGA スクールが始まった中で、盲目的に従来の学習文化の踏襲に甘んじていたが、児童の知識・技能の習得には、もっと効率的で、個々の児童に寄り添った方法がなかなか模索していた。



導入結果

個に応じた学習支援が可能になった。紙の学習教材ではゴールや課題が見えにくく、学習になかなか向き合えなかった児童もいたが、**Monoxer のシンプルな学習方法に慣れたこともあり**、今では学習習慣が定着し、意欲も高まった。

Interview

旧態依然とした指導方法からの脱却。 個々の生徒に寄り添った学習方法を求めて Monoxer に会う。

– はじめに、Monoxer を導入するに至った際の課題感を教えてください。

児童の知識・技能の習得には、もっと効率的で、個々の児童に寄り添った方法があると従来より考えていました。GIGA スクールが始まったにもかかわらず、多くの教育現場における指導方法が旧態依然としており、盲目的に従来の学習文化の踏襲に甘んじていた点には私自身、疑問がありました。

– Monoxer を用いた学習を開始して、どのような効果があったと感じられますか？

個に応じた学習支援が可能になりました。紙の学習教材ではゴールや課題が見えにくく、学習になかなか向き合えなかった児童もいましたが、Monoxer のシンプルな学習方法に慣れたこともあり、今では学習習慣が定着し、意欲も高まっています。子供によってはありますが、計画的に取り組んでいる子の点数はUPしており、宿題をやらない生徒も相当減ったように感じています。

朝学習や授業の隙間時間、家庭学習等、様々な場面で柔軟に活用。 受け身だった児童の学習姿勢にも変化が。

– Monoxer を活用した授業の一連の流れを教えてください。

朝学習や授業の隙間時間、家庭学習等、様々な場面で柔軟に活用しており、児童によっては自分で学習計画を設定し、自分のペースで主体的に学習を進めています。多くの場面で、受け身の学習姿勢から主体的な学習姿勢へと児童の変容が見られます。

– 授業でのご活用の際に、特に意識している点を教えてください。

Monoxer 等のコンテンツを授業の内外で活用して知識を定着させることで、思考力・判断力・表現力等の高次な資質・能力を高める授業の時間を多く確保しています。また外部検定など身に付けた力を発揮する環境の整備も同時に行い、検定合格した際の自己肯定感の向上を目指しています。

知識事項の予習は Monoxer にお任せ。 今後は知識事項以外の授業時間を拡充予定。

– 校内研究にも取り組まれていると聞きました。

はい。知識、技能などの時間は Monoxer で短縮して、そこで身に付けた知識や技能を使って、授業で意見を言い合うことで高次の資質・能力を育成する研究をしています。先に Monoxer でも予習をして、授業に臨んでもらいましたが支障はありませんでした。むしろ裏付けの知識がないのに雰囲気だけで喋るような児童がいなくなり、しっかり知識に基づいて考えを発表するようになりました。根拠が弱いまま発言した児童に対して、「なんでそう考えたの？」と聞くと、「なんとなく」と答える児童もかつてはい

ましたが、Monoxer で予習することでしっかり言葉を繋げて説明する児童が増えてきました。

– 最後に今後の展望についてお聞かせください。

社会の授業では知識の分野でも授業をしています。知識事項は Monoxer に任せたいと考えています。社会で言えば、「どのような国を目指して、国づくりをしたのか」のような知識事項以外の部分の時間を拡充していきたいです。

子供たちの特性に合わせた教材作成を実現！ 特別支援学級における個別最適な学びの選択肢 としての Monoxer。

文京区立第九中学校 様

種別 学校 対象学生 中学生（支援学級）

使用科目 国語、英語、算数、数学、理科、社会



課題

導入結果

学校として、生徒をだれ一人、取り残さないために「個別最適な学び」「協働的な学び」により、探究的で創造的な学びを推進しているが、支援学級を対象としているような教材がなかった。



Monoxer の操作の手軽さによって、支援学級の大きな課題の1つである **自発的な学習が休み時間などに生まれている。**

Interview

文京区立第九中学校 様

**支援学級の生徒でも使用できる手軽さが魅力。
生徒自身が自ら勉強を開始するようになるなど、導入後の変化も。**

– はじめに、どのような目的のもとでMonoxerを導入されたのかを教えてください。

支援学級では以前から他の教材を使用していたのですが、教材を開く方法や、1つ1つの動作が結構多かったりで、実習するのはちょっと難しい時もあったんです。その点、Monoxerであれば、先生側がやらせたい教材を好きなように入れて、子供も楽な操作で教材にたどり着けるというところが大きなポイントでした。

– Monoxerを用いた学習を開始して、どのような効果があったと感じられますか？

Monoxerを導入してからは生徒1人で、「休み時間に勝手に開いてもいいですか？」という感じで、自発的に進めてくれるようになりました。生徒自身が自分で勉強を開始できるか否かは支援学級の大きな課題の1つなので、それを達成できたことは素晴らしいと考えています。

**授業の最初は毎回 Monoxer タイムを確保。
学習するコンテンツも支援学級ならではの工夫が。**

– Monoxerを活用した授業の一連の流れを教えてください。

まず最初に今日の流れを確認して、モノグサタイムを5分程度取ります。それが終わったら、今度Teamsを活用して、画面共有しながら、今日の最低限勉強する内容を勉強します。その後、簡単な説明をした後に、5分6分くらい動画で学習をして、基礎的な勉強の方は終わりです。基礎学習を終えた後は15分間くらい、インターネットの調べ学習の時間を取っています。

– 授業でのご活用の際に、特に意識している点をご教示ください。

授業の最初に毎回 Monoxer を5分やる時間を作る習慣を作ることが大事だと考えています。

加えて、その授業のチャイムが鳴る前にはもう Monoxer を始めて待っていなさいという方針にしており、そうすることで早くから時間を少し使って自習するという習慣が少しずつできているので、効果を感じています。

– 学習するコンテンツについて工夫されている点はありますか？

通常の学ぶカリキュラムと基本的には同じようなカリキュラムで勉強はしていくのですが、ちょっとつまづきやすい部分だとか、より学んだ方がいい、生活に根差した学習を含めたり、より興味関心を持ちやすい分野の問題を作ってます。また、学ぶことは楽しいと思えるようにしたいので、簡単な問題を作成したり、4択問題を多めに作成し、正解しやすい体験も意識しています。

**最終的には生徒自身が学習内容を選択する状態に。
生徒にあわせた個別最適な学びの理想形とは。**

– 最後に今後の展望についてお聞かせください。

最終的には生徒が Monoxer タイムに、自分はこの勉強の方がいいって、それを選んで自習をする状態が理想です。今後はこのような自分で学習の内容を決めてやるタイプの授業を少し実践しようと考えています。それぞれが自分のやりたい、やるべきものを選んで勉強できる

環境になるということは、よりその個別最適な学びの充実につながっていくと思います。自分の進路に合わせて、自分のやるべき勉強をやりたい時にやれる。そんな環境が作れるのではないかと期待を膨らませて取り組んでいます。

島から世界へ羽ばたく力を Monoxer活用で変わる学び方

江田島市立大古小学校 様

種別 学校 対象学生 小学生

使用科目 国語・算数・理科・社会



課題

教員の丸付け業務が多く、児童一人一人への適切なサポートが十分できないことがあった

紙ベースの学習では児童の自主的な取り組みが進まず、学習意欲が低下する傾向があった

導入結果

教員の丸付け業務が削減され、学校全体の業務負担が軽減された

児童が自主的に学習に取り組むようになり、保護者からも学習の見える化に対する好評を得ている

Interview

江田島市立大古小学校 様

「島を出ても世界で通用する人材」を育てるために、 Monoxerで主体的な学習を促進

— まず、Monoxer 導入までの経緯についてお聞かせください。

本校ではこれまで子どもたちの学力向上のため、紙の計算ドリルで課題を出して、教員が丸付け・補充の支援を行って来ました。しかし、そうした学習に児童自ら取り組ませるのは至難の業です。教員側の丸付け業務にも時間もとられます。結果、児童の学習理解を進めきれないでいました。校長として「丸付けをサポートしたいけれども、教員を増やすこともできない」ともどかしさを感じて現状を見ていた私の目には、丸付けが不要で即座に子ど

も達へのレスポンスがあるというMonoxerが非常に魅力的に映りました。

— Monoxer を用いた学習の印象はいかがでしたか？

子ども達に試しに使ってみてもらったところ、驚いたことに口々に「すごく楽しい!」と話し、自ら主体的に学習に取り組みはじめたんです。その姿に、「これはこれまでの紙の学習教材とは違うな」という手応えを感じ、今年度4月に本導入するに至りました。

これまでドリル学習をしていなかった理科・社会で成績向上 教員の業務効率化にも寄与

— Monoxer 本導入にあたっての期待と、半年の活用での効果を教えてください。

導入当初期待したのは、従来紙のドリルで行ってきた算数の計算力や国語の語彙力などの力の伸びでした。しかし、実際の成果がすぐ現れたのは想定していなかった部分でした。理科や社会など「これまでドリル学習をしていなかった教科」の成績が抜群に伸び、特にICT推進リーダーが担当する理科は全体の知識定着率がびっくりするくらい高くなったのです。漢字の筆順への意識が大きく向上したのも嬉しい誤算でした。従来新出漢字の筆順は確認していましたが、日々の書き順指導までは手が回らないのが現状でした。しかし、Monoxerは漢字の筆順を強く意識させる設計のため「正しい書き順で綺麗な字が書けるね」という声かけだけでも書き順が身につけてきています。子ども達は Monoxer をすごく気に入っているようで、6年生の間で

は「モノゲー」という愛称で呼ばれるまでになっています。子ども達が自ら進んで課題に取り組むようになったことはやはり嬉しいですね。

— 教員の業務負担軽減という観点ではいかがでしょうか？

教員の業務負担軽減にも効果は出始めています。本校ではICT推進リーダーが中心になり全学年のMonoxerの問題を作成しているため、各学年の担任などは導入負担が低く、丸付け業務も減少したため学校全体の時間外勤務もやや減少しました。ただ、校務へのデジタル機器導入は慣れるまで多少なりとも負担がかかりますから、教員の負担が「激減した」という所までは至っていません。こうした負担軽減のため、キーパーソンであるICT推進リーダーが要として頑張ってくれています。今年度、彼を中心にした問題作成と実践が一巡すれば、来年度はこの面でも大きな成果が現れるのではないかと考えています。

今後は算数などの他教科においても 活用を拡げていきたい

— 最後になりますが、今後の展望についてお話をください。

従来の紙のプリント学習ではスキマ時間に学習を進めさせようにも、プリント準備・配布・回収にそもそも時間がかかってしまっていて、5分では満足に進められませんでした。ですが、Monoxer になってから3分でも時間があれば進めることができるようになりました。しかも、児童がやりたい教科や単元を選んで勉強することもできます。

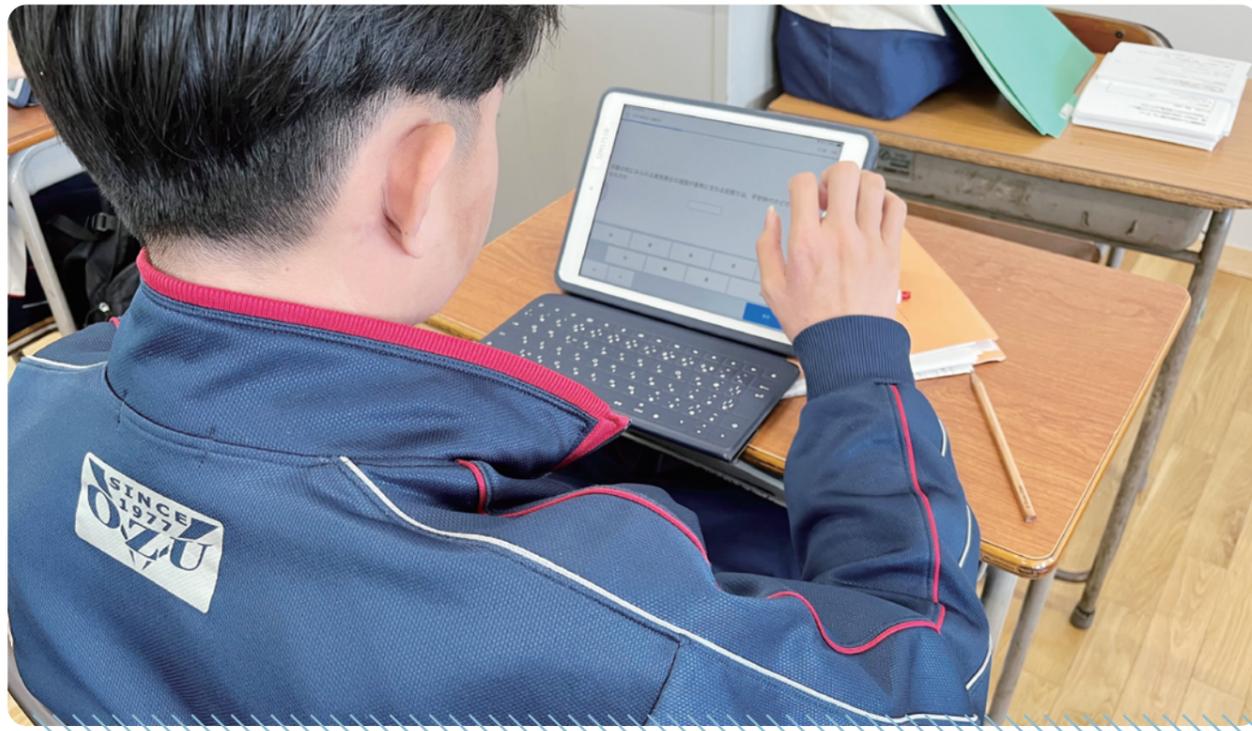
これにより子ども達は着実に力をつけ、テストの点につながることで学習意欲も上がってきています。これを理科などMonoxerで問題を解きやすい教科だけでなく、計算が必要な算数などにもつなげ、継続的にMonoxerの活用率を上げていきたいと思っています。そのためにも、まずはICT推進リーダーとして問題作成を今年一年頑張りたいですね。

Monoxer で基礎を固め、 生徒主語の共創プロジェクト型の学びを実現

泉大津市立小津中学校 様

種別 学校 対象学生 中学生

使用科目 国語・英語・数学・理科・社会



課題

PBL（問題解決型学習）型の授業など発展的なカリキュラムを実践する中で、さらに生徒の長所を伸ばすべく基礎知識の強化を図りたいと考えていた



導入結果

Monoxer で学習した生徒は、未活用の生徒と比べて学内テストの点数が平均で 2 倍以上高いという結果が出た。また、基礎知識の習得によって、**授業内では生徒に本当に力をつけさせたい所に時間を割けるようになった**

Interview

より発展的な学習をするために 基礎となる知識・技能の定着に注力

– はじめに、どのような目的のもとで Monoxer を導入されたのかを教えてください。

本校では「知識を身につけること」、そして「身につけた知識を発展的に使いこなすこと」が一体となる学校づくりを目指しており、共創プロジェクト型の学びが機能するためにも、知識・技能の定着がとても大事になります。そこで、学力の基礎となる、知識技能の習得を期待して Monoxer を導入しました。

– Monoxer 導入前は、どのような課題を感じていらっしゃいましたか？

生徒主体での取り組みを進める中で、自分で考えたり、思いを表現できる生徒が増えてきました。しかし一方で、基礎的な学習指導要領にあるような知識に抜け漏れがあるという課題を感じるようにもなりました。

さまざまな AI ドリルが世の中に出ているので、実際生徒に使ってもらいその結果を検証しながら、効果を感じられるツールを探していました。Monoxer に取り組んだ生徒について、ほぼ 100% の割合で知識定着が確認できたこと、そして何より本校が感じていた「基礎知識の習得」という課題に一番合っていたのが Monoxer さんでした。

夏休み明けテストで、 記憶度が 50% 以上の生徒と未満の生徒の平均点に倍以上の差

– Monoxer 学習を開始して、どのような効果があったと感じられますか？

わかりやすく結果が出たのは、昨年のサマーテストです。夏休み明けに実施しているテストで、夏休み課題に取り組んだ成果の確認テストとして毎年行っています。今回、そのサマーテストの各教科における結果に対して、Monoxer で夏休みにタスク配信した Book の記憶度が 50% を超えた生徒と 50% 未満の生徒で分析を行ったところ、平均すると点数に倍以上の開きがあることがわかりました。そのため「とりあえず Monoxer をやれば結果が出るよ」という声かけが生徒にしやすくなりました。「Monoxer での取り組

みが点数につながる」と生徒たち自身が理解したことで、学習に対する意欲が高まったと感じます。

あとは「全国学力・学習状況調査」の結果についても、変化を感じています。まだまだ学力課題のある生徒も多いのですが、今年度の中学 3 年生の結果を全国平均や大阪府平均と比較すると、過去年度と比べてその差が確実に縮んでいます。本校の場合は、記述問題や表現問題がよくできている一方で、最初に出題される基礎的な問題を間違える傾向がありました。結果を見ると今年は基礎問題の誤答が減っているので、Monoxer に取り組んだ成果もあるのではないかと教員の間でも話題になっていました。

基礎知識の定着とプロジェクト学習を通して、 生徒が学びの結びつきをより実感できるように

– 最後に今後の展望についてお聞かせください。

それぞれの学びの結びつきを感じられる生徒が増えるといいなと考えています。

基礎的な知識技能を身につけて「とりあえずテストの点数が上がった」だけでは駄目ですし、プロジェクト学習で「楽しく学びを進められた」というだけでも、学びの深まりとしては足りないと思います。基礎知識や興味関心と、PBL のような発展的な学習がつながって考えられる生徒を増やしていきたいです。

あとは、まだまだ全員一律の学びが前提となっていることも多い

ので、Monoxer を活用することで生徒個人に最適な学びが深まる機会を増やして、学校としても個人に最適な学びができる場所になっていきたいです。

日々授業のあり方や進め方が変化しているので、Monoxer の基礎コンテンツも生徒の能力をより高めるような内容に少しずつ変えていただけたらうれしいですし、現場のニーズや状況に合った学習を生徒に提供していきたいです。これからもモノグサさんと一緒に模索しながら、更に活用を進めていければと思っています。